

マックス・ヴェーバー没後百年シンポジウム

学知の危機とマックス・ヴェーバー

——科学主義と反知性主義を超える

12月19日(日) 13時～17時30分 ZOOMによるオンライン開催

科学技術や機構組織の著しい発展とともに、公衆から遠ざかる専門知。啓蒙理性の傲りと自然科学万能主義に浸潤された、安易な一元論的思考の跳梁跋扈。設計主義のもとで個人の生を丸ごと管理・規律化し、個人の客観的判断の支えとなるはずの価値自由の領域を窒息させようとする、官僚制の肥大化。科学的真理と称してレイシズムをはじめとする差別と偏見を撒き散らす、政治家・役人・文筆家たちの〈無責任の体系〉の現出。

21世紀に入ってから起きたことは、すでに100年前のドイツで起きていた——。

その時代と格闘したマックス・ヴェーバー、彼と時代を共にした人々、そしてその影響を受けた人々。まさにこれらの人々の織りなす思想と営みが伝えるものを、私たちはどう引き継ぐのか。学知の危機を乗り越えるために、「ヴェーバー没後100年シンポジウム」という名のフィールドが、ここに開かれる。

13:00 開会・趣旨説明：恒木健太郎（専修大学）

13:10 内藤葉子（大阪府立大学）

性・性愛・科学

——〈自然〉に対するマリアンネ・ヴェーバーの批判的視座の射程

13:45 橋本直人（神戸大学）

マックス・ヴェーバーと〈意味〉の地平

——科学主義・シュタムラー・ドイツ社会学の間で

（休憩）

14:35 太子堂正称（東洋大学）

ハイエクにおける科学主義批判と「新自由主義」批判

15:10 コメント：野崎敏郎（佛教大学）・三笥利幸（立命館大学）

（休憩）

15:55 リプライ・全体討論

司会：鈴木宗徳（法政大学）

開催日時：2021年12月19日(日) 13:00～17:30

下記のURLまたはQRコードからZOOMミーティングの事前登録をして下さい。

折り返しメールで接続情報が届きます。

<https://bit.ly/3zv9dVW>

参加費は無料です。どなたでもご参加できます。

当日はZOOMを用いて録画をさせていただきます。映像の公開はいたしません。

主催：ヴェーバー没後100年シンポジウム実行委員会

後援：大阪府立大学女性学研究センター 法政大学大原社会問題研究所

問い合わせ先：weber100japan@gmail.com

<https://www3.cuc.ac.jp/~arakawa/weber21/symposium100>

